

令和2年度

病虫害発生予察特殊報 第1号

令和2年9月28日
茨城県病虫害防除所
TEL：0299-45-8200

ミナミアオカメムシの発生について

害虫名：ミナミアオカメムシ
学名：*Nezara viridula* (Linnaeus)
発生作物：水稲

1. 発生確認の経緯及び県外での発生状況

- (1) 令和2年8月、県南地域に設置した予察灯で、本県では未発生のミナミアオカメムシが誘殺された。また、同月に県南地域の水稲圃場において、本虫と疑われるカメムシ幼虫(写真1)が確認されたため、室内飼育して得られた成虫について形態的特徴を調査した結果、ミナミアオカメムシであることが判明した。
- (2) 国内では、1950年代までは九州地方を中心に発生していたが、その後、西日本を中心に分布が拡大している。近年は関東地方でも発生が確認され、平成22年以降、千葉県、神奈川県、東京都、埼玉県で特殊報が発表されている。

2. 形態の特徴

成虫の体長は12~16mmで、外見はアオクサカメムシによく似ており、小楯板上端に3つの白い斑点があることは共通している(写真2)が、触角の第3~5節の前半分が褐色(アオクサカメムシは黒色)であることや、腹部背面が一様に緑色(アオクサカメムシは一部が黒色)であること(写真3, 4)で識別できる。成虫の体色には遺伝的変異があり、多くの色彩型がある。

3. 生態の特徴

世界各地の熱帯から亜熱帯、温帯地方南部に広く分布する。1~5齢幼虫を経過して成虫となり、国内では年3~4世代を経過する。成虫で越冬するが、最寒月の平均気温が5℃以下の地域では越冬できないとされている。

4. 被害の特徴

成幼虫ともに口針で植物の汁液を吸汁する。広食性で水稲、大豆、野菜類、果樹類等32科145種の植物を吸汁することが知られている。

水稲では穂を吸汁し斑点米を生じさせる。本虫は斑点米カメムシ類の中では比較的大型であり、低密度でも被害が大きくなるとされている。

5. 防除対策

本種を確認した圃場では、必要に応じて各作物でカメムシ類に登録のある農薬で防除する。なお、農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用基準、注意事項等を確認の上使用する。



写真1 ミナミアオカメムシ5 齢幼虫



写真2 ミナミアオカメムシ成虫
(円内の小楯板上端に3つの白い斑点)



写真3 ミナミアオカメムシの腹部背面
(円内が一様に緑色)



写真4 アオクサカメムシの腹部背面
(円内の一部が黒色)